

▶コンクールで受賞した商品を紹介する山本専務。



新技術で農林水産大臣賞に輝く

(株)大正屋醤油店が製造する「お米から造った純米しょうゆ」が、このほど一般財団法人食品産業センター主催の「優良ふるさと食品中央コンクール」で最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。

大豆や小麦を使わず米だけで造る点や原料の一部を地元酒造会社の酒かすを使用し地域資源の活用に寄与している点が評価されました。山本周作専務は「従業員がいたから取れた賞です。今後もこのしょうゆを広めていきたい」と話していました。

▶安来高校、情報科学高校の生徒49人が参加しました。



新社会人としての心構え学ぶ

この春から就職する高校生に社会人としての心構えや職場への適応力を身につけてもらおうと、2月3日に安来市学習訓練センターで「島根県就職内定者合同研修会」が行われました。

講師となったのは、市内の高校を卒業した先輩社会人。自身の職場や仕事での体験談を交えながら、新社会人としてスタートを切る後輩にエールを送りました。

安来高校の角森敬斗^{けいと}さんは「あいさつの大切さを改めて感じた。仕事をスムーズに進めるために、職場で実践していこうと思います」と話していました。

たっぴん どぴっくす

まちの話題や出来事をご紹介します

今月の一枚



節分の日に現れた鬼に豆を投げたり、柗の葉を見せたりして退治する園児たち。少し怖がりながらも勇敢に立ち向かっていました。

2月2日：認定こども園井尻

地域で文化活動 30年 市長日記

広瀬町文化協会は、設立から30周年の節目を迎えられました。平成3年の「西田明史展」を皮切りに、数多くの作品展示や講演会などを開催されています。

今後も地域の芸術文化の魅力を市内外へ発信いただき、文化や芸術を通じた活気あふれる活動を期待しています。



▲2月7日に式典を開催。活動に尽力した6人へ感謝状などが贈られました。



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック」で公開しています。



▶3つの班に分かれて話し合いを行いました。



地域をより良くするために

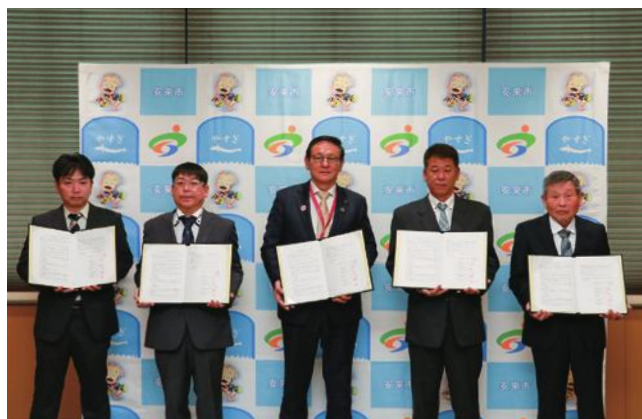
子どもたちと一緒に布部小校区の未来を考えようと1月27日、「布部の未来を考える会」の皆さんが布部小学校の児童とワークショップを行いました。テーマは、旧布部中学校体育館周辺の「ふれあいエリア」の使い方。布部小校区の皆さんが明るく楽しくなるためには、どのような使い方をすれば良いか一緒に考えていきました。

児童からは、「来た人が遊んだり散歩や休憩をしたりできるような場所にする」「みんなが楽しめるような行事を催す」などのアイデアが出されました。

災害時のごみ収集運搬協定を締結

市と市内の定期収集委託業者5社（有限会社アビットクリーン、有限会社トータルクリーン、長谷川清掃、株式会社濱田産業、協同組合安来クリーン）は2月19日、「災害時における一般廃棄物の収集運搬の協力に関する協定」を締結しました。

災害時に出る一般廃棄物の処理は、平時と同様に衛生面を保つため迅速に行わなければなりません。この協定により、災害が起こった際でも市からの要請で、普段は収集場所ではない避難所などの一般廃棄物の収集運搬を円滑に行えるようになります。



▲協定書を持つ締結事業者と市長（中央）。

特殊詐欺被害防止に一役

特殊詐欺被害防止どじょっ隊がこのほど、「島根県犯罪のない安全で安心なまちづくり賞」を受賞しました。

同隊は、安来市地域安全推進連絡協議会の十神分会と社日分会のメンバーが所属。特殊詐欺の手口や近隣の被害状況などをまとめたチラシを作成して定期的に配布するなどの活動を行っています。

同協議会の岩佐嵩己社日分会長は「受賞を機に、さらに特殊詐欺被害防止に向けて取り組みを進めていきたいです」と話していました。



◀左から田中市長、岩佐分会長、十神分会の原治分会長。



◀歴史資料館で行われた贈呈式。左3人が同会青年部の皆さん。

登山に役立てて欲しい

安来市商工会青年部が設立60周年を記念して、月山と比婆山の登山用にトレッキングポール（つえ）100本を寄贈しました。1月31日には、贈呈式が行われ、市歴史資料館（広瀬町富田）と不動滝「ふれあい広場」（伯太町峠之内）で同会青年部から受領団体へ目録と現物が手渡されました。

寄贈されたトレッキングポールは、長さ調節が可能のため、大人から子どもまで使うことができます。

同会青年部の村本剛さんは「このつえで少しでも楽に登山をしていただけたらうれしい。地域の役に立つ活動を続けられれば」と話していました。

